

温篤新聞

通巻206号



『キ。人間の身体について』

皆さんは『チ。』地球の運動についてという漫画やアニメはご存知でしょうか。

『チ。』というタイトルに目は惹かれるものの、どのような内容かは分からず興味を持たなかったのですが、ひょんなことからアニメを見てみると、あれよあれよと引き込まれて一気に全話を観てしまいました。

舞台は15世紀のヨーロッパ。

地球は宇宙の中心であり、天が動いてこの世は成り立っているという考えの「天動説」が絶対的な常識であり、神が作ったこの世に異を唱える者は神に背く異端者として容赦無く処罰される時代でした。その処罰の拷問に目を背けたくなるような内容もありますが、それ以上に、

真実の夜空にただただ魅せられて、地球の方が動いていると考えた方がむしろ美しく合理的なのではないかという地動説を、ただ真実が知りたいというだけで、正に命を賭けて探求していく姿に心を揺さぶられました。

この作品を観ながら、鍼灸師という職業に出会い、経絡治療に出会い『キ。』人間の身体について『の世界を知ってしまった私

が、後世に未来に、この世界を伝えていかなければならないと重ね合わせて見てしまいました。

私が鍼灸の世界に憧れたきっかけはスポーツの現場でしたが、治療をして痛みが消えたという事は、本当に治ったという事なのだろうかという疑問が生まれ始めました。スポーツの現場では痛くな

医食同源 秋刀魚(サンマ)

秋に旬を迎える魚で、脂のつた豊かな風味が特徴です。DHAやEPA、良質なたんぱく質、ビタミンDを含み、血液や骨の健康維持、生活習慣病予防に役立つとされています。秋の味覚を代表する栄養豊富な食材です。



今月のツボ 梁丘(りょうきゅう)

「梁」は橋や横に渡したものの、「丘」は小高い丘を意味し、太ももの筋肉の盛り上がりの上にあることから名付けられました。



ものの外側に位置します。

場所は膝のお皿の外上端から指3本分ほど上、太

胃経に属し、胃の働きを整え、急な胃痛や腹痛、胃もたれ、膝の痛みや腫れなどに用いられます。特に急性の胃腸症状や膝周辺の痛みの緩和に効果が期待されるツボです。

く動けば良いのかもしれませんが、日々の生活を送る一般の患者さんにとつて、これで良いのだろうかといふ。数千年受け継がれてきた鍼灸の深遠な技術が、単なる痛み止めの手段だけで終わって良いのだろうかといふ。

そんな自問自答の中で出会ったのが「経絡治療」でした。

経絡治療は、痛む局所だけを診るのではなく、全身のエネルギーの通り道の経絡の『気』のバランスを整える治療法です。気の流れを整える事で、長年不眠に悩んでいた方が、施術中に穏やかな寝息を立て始めたり、現代医学で異常なしと諦めかけていた不調が良くなったり、と驚くべき変化を幾度となく目の当たりにしてきました。

チ。の世界で地動説が密かに書き残され、語り継がれてきたように、私達が扱う東洋医学・経絡治療もまた、気の遠くなるような年月の中で、先人たちが臨床を重ね、脈々と現代に受け継がれてきた知識と技術です。

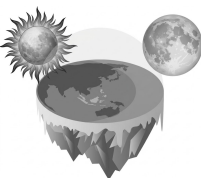
しかし、現代では、鍼灸師を目指す若い世代であっても、こうした東洋医

学の面白さや奥深さに触れる機会が少なく、痛みを取るための技術としてしか鍼灸を知らされないまま過ごしてしまうケースも少なくありません。本物の素晴らしい技術を知りたいければ、憧れることすらできません。

この素晴らしい技術と感動を自分一人だけのものにせず、正しい形で次の世代へ伝えていかなければならないと思います。私が情熱を持つて次の世代を育てる事は巡り巡って、将来の患者様がより質の高い治療を受けられる未来へとつながります。

今月もまた皆様の心と体に寄り添い、本来の健やかさを取り戻すお手伝いができるよう、その情熱を持つて施術に当たって参ります。

そして、かつて地動説の美しさに見せられた学者たちが、未来へ託したように、私もまた先人から受け取った知識と技術を未来の治療家たちへつないでいきたいと考えています。



二十四節気と七十二候

「くらしのこよみ」より

日本には美しい四季があります。春、夏、秋、冬…折々の豊かな表情は日々の生活に彩りを与えます。日本人は昔から季節感を大切にして暮らしの中に取り入れてきました。

その抛り所となったのが、『二十四節気』です。地球から見た太陽の通り道「黄道」三六〇度を十五度ずつ二十四に区切り、その一つ一つに節気を配して四季の移り変わりを表したものです。一つの節気は十五日程度になります。

また二十四節気の一つ一つをさらに三区分し、季節の風物を言葉で表現したものが『七十二候』です。こちらはだいたい五日単位で、その季節の特徴的な自然現象を意味する名前が付けられています。

二十四節気

白露

(9月7日)

「白露」は、草木の葉に白い露が宿り始める頃を意味します。「白」は露の白く輝く様子を表し、秋の気配が深まる時季を象徴しています。

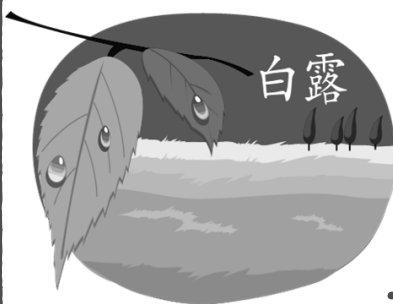
太陽の動きを基に定められ、昼間はまだ暑さが残る一方、朝夕には涼しさが増し、季節の移ろいを感じる頃とされています。

『若い世代の理解と協力』

地域社会に、退職者や高齢者の「生きる場」が増えつつあるのは良いことです。高齢者のそれまでの知識や経験を活用した技術提供のボランティアとか、勉強したい人のために大学が高齢者を受け入れる制度もあります。

あとに続く若い世代の人間は、そうした人たちの人生完成のお手伝いをさせてもらうではありませんか。それが、若い世代自身の人間尊重の心を養い、人間性(品性)を高めることになるでしょうし、それがまた、誰にもできる自分の子や孫に残す1番の無形の精神的な財産です。

高齢者自身が、心から「老い」を喜べる日々の実現。それには、若い世代の理解と協力が欠かせません



七十二候 (9月12日～16日頃)

鶺鴒鳴(せきれいなく)

「鶺鴒(せきれい)」は、水辺や田畑などで見られる小鳥のことで、秋の訪れとともに鳴き始める様子を表した言葉です。

セキレイは長い尾を上下に振りながら歩く姿が特徴で、古くから身近な鳥として親しまれてきました。中国から伝わった暦の言葉が、日本の自然の中で季節を告げる鳥として受け継がれたものです。

朝夕の風が少しずつ涼しくなる頃、澄んだ鳴き声に耳を澄ませば、夏から秋へ移ろう季節の気配を感じることができます。

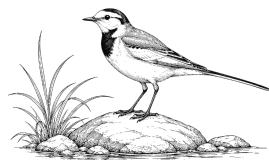
季節の楽しみ

重陽の節句

九月九日は「重陽の節句」。五節句の一つで、古くから「菊の節句」とも呼ばれてきました。菊は長寿を象徴する花とされ、菊を飾ったり、菊の花びらを浮かべた菊酒を楽しんだりして、無病息災や長寿を願います。

昔の人々は、季節の節目に草花を愛で、自然の恵みに感謝しながら暮らしていました。忙しい現代では、こうした風習に触れる機会も少なくなりましたが、季節を感じ、健康を願う心は今も変わりません。

九月九日には菊の花を一輪飾り、古き良き日本の文化に思いを馳せてみたいものです。



執筆余話

まだまだ残暑が続くとは思いますが。しかし、今年の夏は耐え難い暑さの日や寝苦しい夜も幾日かありましたが、それも例年ほどは多くなく、比較的我慢の出来る夏だったのではないのでしょうか。

そんな事を言ってられるのも関東だけで、西日本や熊本では酷暑の暑さも伝えられ、電気や水道が不自由な中の復旧作業に、千葉県も含め、心よりお見舞い申し上げます。

昨今は、雨にしても地震にしても災害級の被害が出る事が多く、常総市での鬼怒川決壊を目の前で経験しただけに、ここ茨城やつくばでも何も起こらない事を願っております。

夏のお休みでリズムを崩された方も多い印象でしたが、今年の9月はまた大型連休の方もいらつしやると思いますので、体調管理に留意しながら、健やかに過ごされる事を願っております。



9月

○印はお休みです

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			